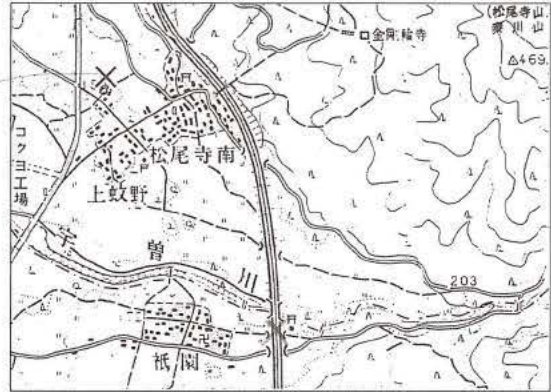


211. 愛知郡湖東町祇園 西塚古墳の調査

去る平成2年11月、蒲生郡蒲生町横山で、同地の天狗前古墳群についての発掘調査現地説明会が行なわれた。この現地説明会の説明資料で、同古墳群が所謂竪穴系横口式石室を持つ古墳群であると報告されると共に、同型式の古墳をもつ古墳群として、蒲生郡竜王町三ッ山古墳群、同郡安土町常楽寺山古墳群、同町竜石山古墳群、愛知郡秦荘町上蚊野古墳群、同郡湖東町祇園古墳群が挙げられていた。三ッ山古墳群は、昭和48年12月刊行の「水と土の考古学」の中で中谷雅治氏が「階段状石積みのある横穴式石室」として報告しており、その際祇園西塚古墳に言及している^①。また、秦荘町上蚊野古墳群の調査報告書においても、西塚古墳の存在が述べられている^②。このように、この種の古墳の報告にその例として言及されることの多い祇園西塚古墳については、調査直後に出された謄写版刷りの概要報告以後、活字化され公表された報告が無かった。調査担当者としては、そのことが気になっていたのであるが、公刊の機を得ず今日に至った。この度、滋賀県文化財保護協会発行の「滋賀文化財だより」の紙面を借りて活字化する機会を得たので、30年余を経ての報告ではあるが、この報告を行なう次第である。

宇曾川の造る扇状地は、湖東地方の山麓地帯の中でも有数の古墳群地域である。記録によれば^③、嘗ては湖東町平柳から秦荘町蚊野にかけて300基をこえる横穴式石室群が存在したが、開墾等により次第に消滅し、現在では極く一部を残すのみとなった。この古墳群の中で、宇曾川の谷口に近く、扇状地の一番奥にあるのがこの祇園の小円墳である。この円墳の所在地は湖東町祇園小字八坂15番地の3で、祇園の聚落の東、八坂神社を挟んで東西に小円墳2基が存在する。共に直径約8m、高さ1m余の小円墳である。この2基のうち西の円墳が発掘調査された西塚である。

この発掘調査は名神高速道路建設に伴う調査で、昭和37年2月15、16両日に行なわれた。調査は時おり時雨の様に吹雪く中で作業であったため意の如くならず、また、種々の事情で、天候の回復を待つて良好

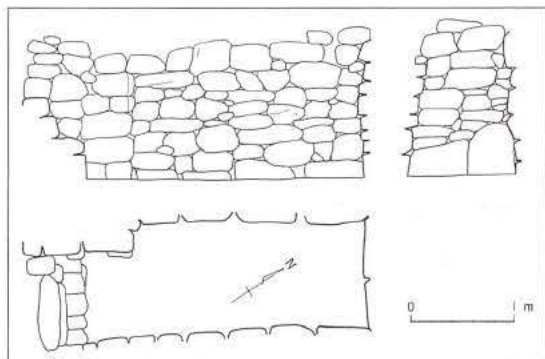


西塚古墳位置図 (×が西塚古墳)

な状態で日数と人手をかけて調査することが不可能であったので、工事現場の作業員数名の応援を得て最小限の調査にとどめざるを得なかった。名神高速道路建設に伴う遺跡の調査は、工事施行前に県下の予定地の事前調査が行なわれ、それに基づいて調査計画が立てられたのであるが、この小円墳についてはその措置がとられていなかった。ところが、工事がこの円墳のすぐそばまで進んだとき、道路公団の現地関係者から古墳ではなかろうかとの報告があり、初めて調査を必要とする遺跡であることが確認された。したがって、前述の如き不十分な方法しか取れなかったのは残念であったが、とにかくこれだけの調査が実施できたのは、道路公団愛東工事事務所の関係職員諸氏から種々調査の便宜を計っていただき、さらにこれを援助していただいた名神高速道路第二建設局滋賀支所の関係職員の御協力があったため、これらの諸氏に謝意を表わす次第である。

発掘前の所見では、極めて低い墳丘の墳頂部に石の列が約70cm間隔で2mほど並んでいた。その石列の石は付近に散在している数個の石と共にすべて小形のもので、天井石らしいものは発見できなかった。したがって、この円墳が如何なる形式のものか推測しかねる状態であったが、発掘の結果、下記の如く極めて特殊な小形石室であることが判明した。

玄室は幅1m、長さ2m20cm、高さは現存する部分で最高1m50cmである。推定原形においても、高さはこれと殆ど変わらないものと考えられた。即ち、原形から、天井石を覆っていた薄い封土が無くなり、天井石



西塚古墳石室実測図

が取り去られた状態が、現在の円墳であると推定された。封土の現在高が約1m、玄室の高さが1m50cmであるから、玄室はもとの地表を50cmばかり掘り凹めて造られたこととなる。また、羨道部は幅80cm、長さ40cmばかりの短い部分が、玄室底面と同じ高さで造られ、それに外界と結ぶための高さ80cmほどの、石を積んだ2段の階段が取り付いていた。階段用の石は小形のもので、各段共に石を2段に積んでいた。階段と外界を結ぶ施設は何ら発見されず、その状態は不明であった。玄室の奥壁から階段の端まで全長は約3m20cmであった。玄室の石は大形のを殆ど使用せず、他に比して大きい奥壁最下段の石でも、1mの玄室幅に対し2個の石を使用していた。石壁の石はすべてこの古墳の傍らを通る宇曾川の角のとれた川原石を集めて造ったと思われる、割石等の加工石材は認められなかった。なお、天候の都合で実測及び写真撮影が出来なかったが、玄室底には石敷きが確認された。

副葬の遺物はその数も少なく、須恵器9個と鉄刀1口、鉄鏃その他若干の鉄製品破片があるに過ぎなかった。遺物の出土位置は、土器類はすべて玄室の入口近くに置かれ、羨道に続く部分の中央に壺1（実測図の土器番号1）があり、南西隅に甕1、短頸壺1、杯身杯蓋2対、杯身1（実測図2～8）が、東壁下に頸の

長い壺1（実測図9）があった。鉄刀は、玄室の中央部奥壁より1m40cmの位置に、刃を奥壁に向け、刃先を東にして発見された。恐らく遺体の上に置かれていたのであろう。他に鉄製品12片（実測図のもの以外に5個の小破片が認められた）が奥壁近くに散在していた。即ち、玄室底に遺体が玄室長軸に従って頭を奥壁に向けて安置され、頭部と奥壁の間には鉄鏃等の鉄製品が納められ、遺体の上には鉄刀1本が遺体に直交して置かれており、玄室の入口付近には供献の須恵器があったと見るべきである。なお、木棺等棺材については、その痕跡を見出すことはできなかった。

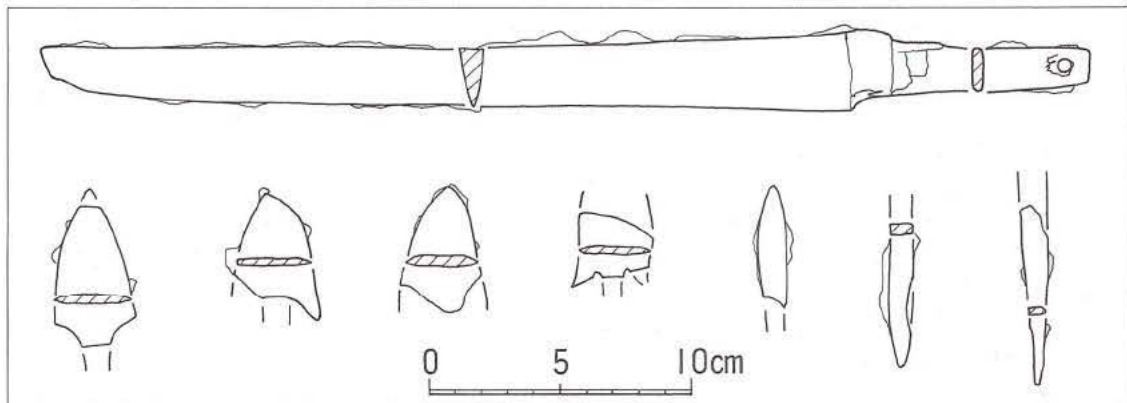
以上、調査結果について述べたが、この小円墳が、この付近一帯の古墳群の中でどのような位置を占めるのか、また、このような特殊な石室構造の小形古墳が他にも存在するのかなどについては、当時の知見では不明と言わざるを得なかった。最初にも述べた如く、この湖東の古墳群の大部分が消滅している現在では、この古墳の古墳群に占める位置を的確に把握することは極めて困難であった。その後約30年間の県内各地の調査の結果、玄室底が羨道部より階段状に降りるこの種の古墳の発見例が多くなり、当時、この古墳だけの特殊性ではないかとも考えられた構造についての解明が進んだのである。現在では、西塚古墳もこの種の古墳の単なる一例とすべきであろうが、湖東の古墳の構造を考えるうえでの歴史的な意味はあると思われるので、ここに30年前の調査結果を報告する次第である。これは筆者の長年の責を果そうとする微意でもあることを諒とされたい。

この稿をなすに当り、遺跡及び遺物の実測図の清書については高田宏司氏の援助を得た。記して謝意を表わしたい。

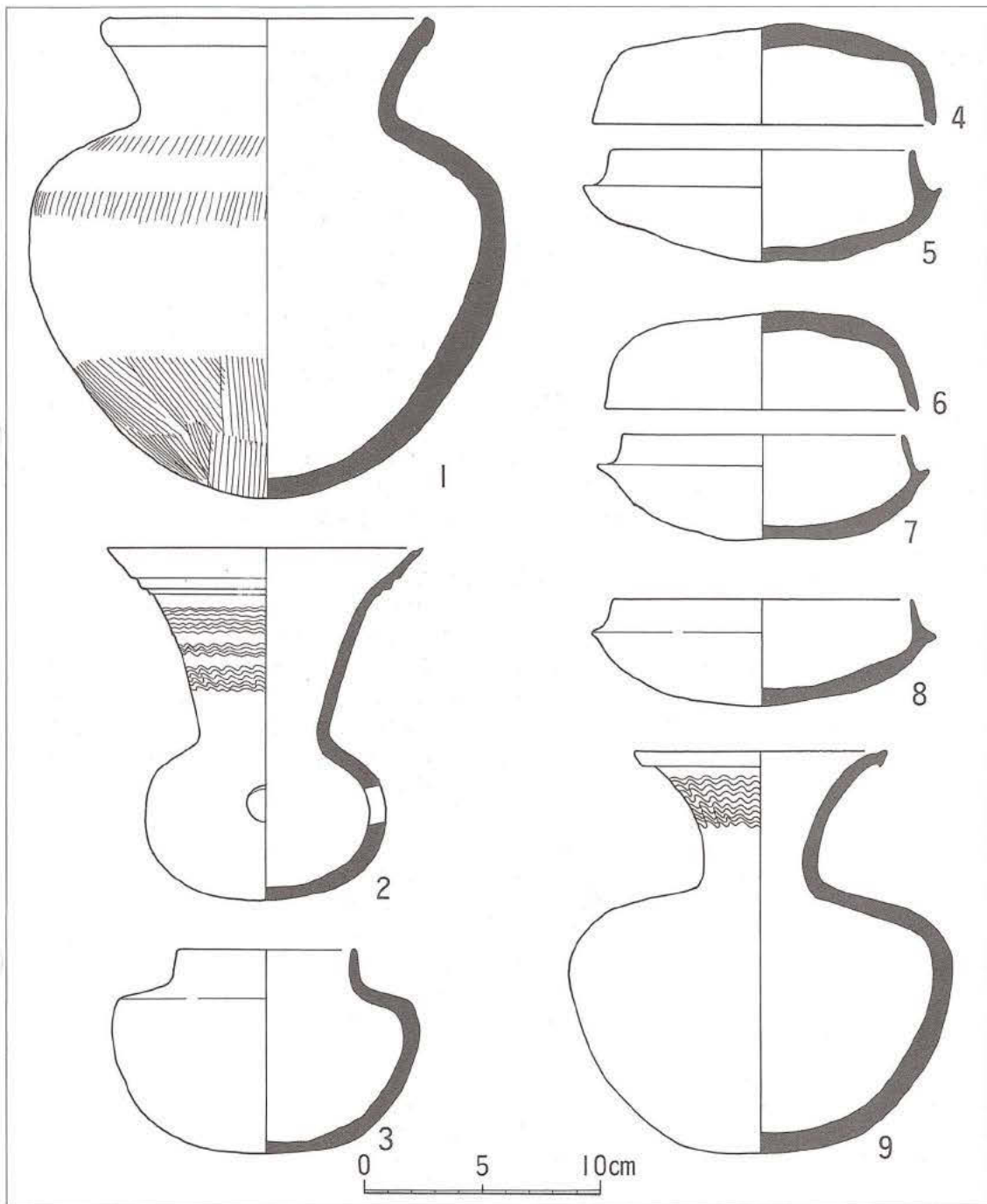
（西田 弘）

註

- ① 蒲生町教育委員会 天狗前古墳群発掘調査現地説明会資料 1990. 11. 23



西塚古墳出土鉄製品実測図



西塚古墳出土土器実測図

- ② 中谷雅治「階段状石積みのある横穴式石室について—滋賀県三ッ山古墳群を中心として—」小江慶雄先生選歴記念論集「水と土の考古学」昭和48年12月20日
- ③ 近藤滋「秦荘町上蚊野古墳群」ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅳ—Ⅱ 滋賀県教育委員会 昭和

52年3月

- ④ 西田弘「愛知郡湖東町祇園所在古墳発掘調査概報」(謄写版刷)
- ⑤ 近江愛知郡志第1巻 昭和4年
滋賀縣史蹟名勝天然記念物概要 昭和11年

212. 鴨田遺跡出土の銅鏃について

長浜平野のやや南よりに位置する鴨田遺跡は、昭和46年以来、数次にわたる発掘調査が行われてきた。これまでのところ、方形周溝墓・竪穴住居・掘立柱建物等の遺構は、現在の国道8号線バイパスより東側に多く認められ、西側には溝・沼地・旧河道が確認されているに過ぎなかった。ところが、平成3年度(1991年)の調査では、従来鴨田遺跡の西端と考えられていた地点から方形周溝墓3基・竪穴住居1棟・掘立柱建物1棟が検出されている。

今回紹介する銅鏃は、『滋賀埋文ニュース』第143号でも取り上げられているように、方形周溝墓の周溝部分から出土したものである。この鏃は、鏃身長2.64cm、鏃身幅1.1cm、莖長0.96cm、莖径0.19cm、重量3.3gを測るものであり、鏃身幅指数(鏃身幅÷鏃身長×100)は41.7である。ゆるやかにふくらむ鏃身部分の中央に1孔を穿つ有莖凹基式の有孔鏃で、断面形は扁平な菱形、基部断面は長方形を呈している。

県内における有孔鏃の出土例は、余呉町桜内遺跡1点・長浜市鴨田遺跡1点(昭和46年度出土)・安土町大中の湖遺跡1点・北湖採集2点の5点である。それらは、いずれも鏃身部分に2～4個の円孔を2列に配するものである。鏃身部分の中央に1孔を穿つ例は、中山大森遺跡・中山清水遺跡・中山藤原遺跡・藤尾山遺

跡・保美平城遺跡などで、いずれも愛知県下の渥美半島に所在する遺跡に限られている^①。これらの銅鏃はいずれも鏃身幅が広く、指数の高いもので、鴨田遺跡出土例とはその形態を異するものである。本例は、円孔部分を除外すればむしろ田中勝弘氏の分類^②によるB-b-4に類似すると考えられ、守山市服部遺跡・安土町大中の湖遺跡・米原町入江内湖遺跡・余呉町桜内遺跡など県内の東部から北部にかけて類例は広く分布している。

かつて田中氏がS字状口縁鏃の分布状況と一致すると考えた多孔鏃の分布範囲に本例も収まるものの、中央に1孔のみの有莖鏃は、渥美半島から確実に西方へ分布範囲を拡げたと言えるであろう。

(三宅弘・澤井美野)

注

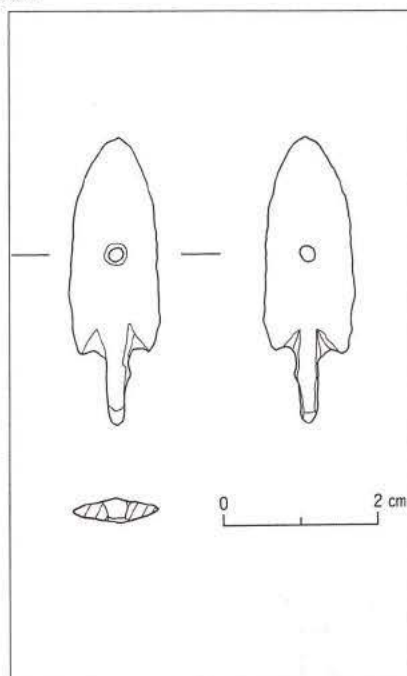
- ①田中勝弘「F. 銅鏃」(『弥生文化の研究』9 雄山閣 1986)
- ②田中勝弘「銅鏃」(『季刊考古学』第27号 雄山閣 1989)

参考文献

- 田中勝弘「74. 近江の弥生時代銅鏃」(『滋賀文化財だより』No42 助滋賀県文化財保護協会 1980)
- 田中勝弘「弥生時代の銅鏃について」(『滋賀考古学論叢』第1集 滋賀考古学論叢刊行会 1981)
- 小竹森直子「152. 資料紹介 北湖採集の銅鏃について」(『滋賀文化財だより』No123 助滋賀県文化財保護協会 1988)

滋賀県出土銅鏃地名表

NO.	遺跡名	所在地	出土遺構	個数	時期
1	南滋賀遺跡	大津市南志賀町	S B 4 P 1・包含層	1 2	弥生中～後期
2	大辰己遺跡	長浜市大辰己町		1	弥生中期後半
3	大成亥・鴨田遺跡	長浜市大成亥町	S R 1	1	
4	鴨田遺跡	長浜市大成亥町	方形周溝墓 包含層	1 1	弥生後～ 古墳前期
5	十里遺跡	長浜市十里町	表採	1	
6	地福寺遺跡	長浜市地福寺町	溝	1	古墳
7	雪野山古墳	八日市市上羽田町	棺内・外	9 6	古墳前期
8	追分古墳	草津市追分中尾	円墳	10数	古墳
9	古高遺跡	守山市古高町		1	
10	服部遺跡	守山市服部町		2	弥生中～後期
11	大塚山古墳	志賀町小野山	前方後円墳	5	
12	下鈎遺跡	栗東町下鈎	旧河道	6	
13	龜草山古墳	安土町桑実寺	前方後円墳石室	3 0	
14	西才行遺跡	安土町上豊浦	T 4 沼内	1	
15	大中の湖遺跡	安土町下豊浦	包含層	5	弥生中期前半
16	柿堂遺跡	能登川町大字今	S R 1	1	
17	入江内湖 西野遺跡	米原町磯西野	包含層	1	
18	五村遺跡	虎姫町五村	溝1中埋土		
19	桜内遺跡	余呉町坂口桜内	竪穴住居(4畝)、溝(8畝)、包含層(25畝)	3 7	
20	伊香郡某所			1	弥生後期
21	近江国某所			1	弥生後期
22	北湖採集			5	



銅鏃実測図